



SPEED`98と改定案の比較表

改訂案	SPEED'98
<p>はじめに これまでの取組</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 内分泌攪乱作用が疑われる化学物質の環境実態調査 2. 生態系への内分泌攪乱作用による影響に関する魚類を用いた試験 3. ヒト健康への内分泌攪乱作用による影響に関するほ乳類を用いた試験 4. 疫学的調査の結果と評価 5. 国際的な協力 <p>今後の方向性</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 基本的な考え方 2. 具体的方針 <ol style="list-style-type: none"> (1) 野生生物・生態系の観察 (2) 環境中濃度の実態把握及び暴露の測定 (3) 基盤的研究の推進 (4) 影響評価のための技術開発 (5) リスク評価 (6) リスク管理 (7) 情報提供とリスクコミュニケーション等の推進 <p>おわりに</p> <p>付属資料</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 環境省のこれまでの取組の年次経過 2) 世界の取組の動向 3) これまでの環境実態調査結果の概要 4) 生体影響及びヒト健康影響への内分泌攪乱作用に関する試験方法の概要 5) WHO内グローバルアセスメント及びその後得られた科学的知見による化学物質暴露と観察された事象との関連性に関する評価の詳細について 6) 環境ホルモン戦略計画SPEED'98改訂ワーキンググループ委員名簿 7) SPEED'98による研究業績一覧 8) 内分泌攪乱化学物質問題検討会委員等 名簿 	<p>はじめに 内分泌攪乱化学物質問題について</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 内分泌攪乱化学物質問題とは <ol style="list-style-type: none"> (1) ヒトや野生生物等への影響 (2) 内分泌攪乱化学物質の定義 (3) 内分泌攪乱化学物質の作用メカニズム 2. スクリーニング・試験法について 3. 調査研究に当たって考慮すべき事項 4. 天然女性ホルモン等 <ol style="list-style-type: none"> (1) 人畜由来女性ホルモン等 (2) 植物エストロジェン <p>本問題に対する環境庁の対応状況と今後の方向性について</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 基本的な考え方 2. 環境庁の取組状況と今後の対応方針 <ol style="list-style-type: none"> (1) 環境中での検出状況、野生生物等への影響に係る実態調査の推進 (2) 試験研究及び技術開発の推進 (3) 環境リスク評価、環境リスク管理及び情報提供の推進 (4) 国際的なネットワーク強化のための努力 <p>世界の取組の動向について</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 米国の取組 2. 英国の取組 3. 経済協力開発機構（OECD）の取組 <p>図表等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年次経過 ・文献 ・野生生物への影響に関する報告 ・委員名簿 ・人の主要なホルモンの作用及び過不足により起こりうる疾患 ・内分泌攪乱化学物質の作用メカニズム ・スクリーニング及び検査計画案の概要 ・内分泌攪乱作用を有すると疑われる化学物質